

報道関係者 各位

2022年12月6日

ジャパン・ハウス ロンドン

『KUMIHIMO: Japanese Silk Braiding by Domyo』展

2023年2月23日（木） - 2023年6月11日（日）

ジャパン・ハウス ロンドン地下ギャラリー／1階ショーウィンドウ・展示ブース

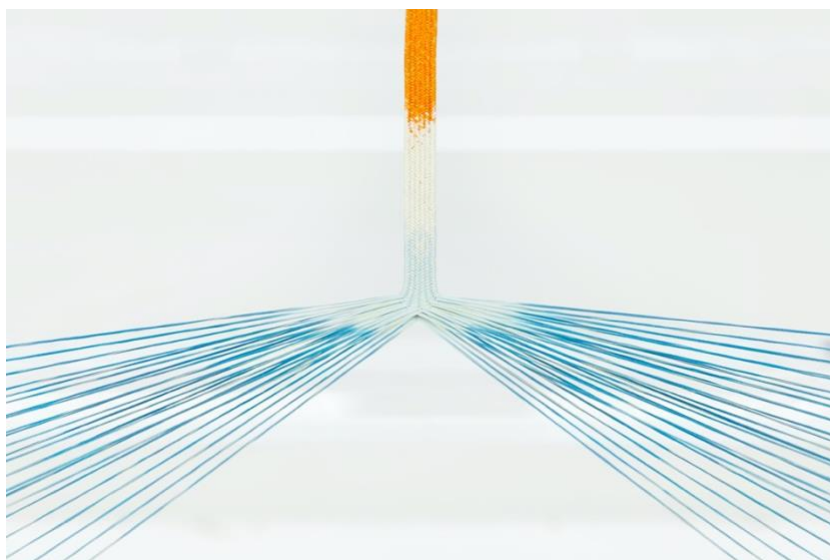


Photo by Kuge Yasuhide

- 手染めの絹糸を複雑な法則に基づいて巧みに編み上げて作り出す「組紐」。日本の組紐の過去、現在、未来を探る、色鮮やかで洞察力に富んだ展覧会です。
- 武士の鎧や刀の下緒、着物の帯締など様々な用途で使用されてきた組紐が、現代ファッションなどにどのように応用されているかを紹介し、組紐の未来の在り方について問いを投げかけます。
- 本展では、会場の床から天井まで続くインスタレーション、30点以上の歴史的な組紐の復元品、職人が使う道具、制作工程を紹介する映像を通して、英国ではまだまだあまり知られていない組紐の全貌に迫ります。
- 会期中は、講演会やデモンストレーション、ワークショップなど、組紐を実際に体験し学ぶことができる各種イベントを開催予定です。公式ウェブサイトやSNSで随時お知らせいたします。
- 一般公開に先立ち、プレス向け内覧会を、2023年2月22日（水）9:00～12:00に開催いたします。詳細は改めてご案内いたします。

ジャパン・ハウス ロンドンは、2023年2月23日（木）から6月11日（日）まで、日本の組紐の歴史と進化を紹介する『KUMIHIMO: Japanese Silk Braiding by Domyo』展を開催します。英国初となる本展は、約1300年にわたり進化を遂げてきた組紐の歴史を紐解くと共に、儀装から現代ファッション、科学や工学に至る幅広い分野で取り入れられている先進的な組紐の構造にも焦点を当て、組紐の新たな可能性について考察します。

本展は、1652年の創業以来300年以上にわたり、東京の上野池之端に店を構え、手染めと手組みにより組紐を作り続けてきた「有職組紐 道明」と、ライター・エディターで永青文庫の副館長を務める橋本麻里氏が企画を手掛けています。

文字通り「紐を組む」という意味をもつ組紐は、3本以上の絹糸を規則的に交差させてつくる紐状のもので、鮮やかな配色と複雑な模様を特徴としています。熟練の職人が1本1本手で組み上げる組紐は、3本の糸だけで組まれるシンプルなものから最大140本もの糸を使った複雑なものまであり色と柄の組み合わせから生まれる組紐の意匠は無限大です。

組紐の発祥は、紀元前の中央アジアに遡り、日本には飛鳥・奈良時代に中国大陆や朝鮮半島を経て伝わりました。シルクロードの東の終着点として多様な文化の集積地であった古都奈良の平城京時代に本格的に展開した組紐は、当時アジア大陸の模様や色合いに影響を受けたものでしたが、平安時代に入ると次第に和様化し、貴族の衣服や巻物、掛け軸、寺社仏閣の宗教的装飾に使用されるようになっていきました。この頃からデザインもより多彩に、複雑で洗練されたものとなり、日本独特の組紐がつくられるようになりました。そして、武士階級の時代になると、甲冑や刀の下緒に使用されるようになりました。現代において、着物の帯締めや羽織紐など和装にはなくてはならない存在となった組紐ですが、その強度や伸縮性に優れた構造を応用して、現代ファッションや航空機部品、ゴルフクラブ、義肢などに広く取り入れられている組紐の新しい可能性については、日本国内でもあまり知られていません。

本展では、会場の床から天井まで続くインスタレーション、30点以上の歴史的な組紐の復元品、職人が使う道具、制作工程を紹介する映像を通して、美しく精巧な日本の組紐の全貌を紹介します。展示品の中には、奈良の正倉院をはじめとする全国の寺社仏閣が所有し一般に公開されることが滅多にない、歴史的なデザインが施された貴重な組紐も含まれます。会期中は、組紐作りを体験できるワークショップを初め、様々な関連イベントも実施。組紐の魅力を様々な角度から楽しみ、学んでいただける展覧会です。

本展では、「歴史」、「構造」、「未来」という3つの主なテーマで構成し日本の組紐を紹介します。

組紐の歴史

「有職組紐 道明」が行った日本各地の寺社仏閣に現存する歴史的な組紐の膨大な調査・研究結果を元に、組紐の過去から現代の軌跡を辿ります。奈良時代から現代に至るまで様々な用途に用いられた歴史的な組紐の名品を、その構造から糸の組成まで正確に再現した復元模造品や、組紐の技法が書かれた巻物や書物を展示します。また、10世紀に組紐技法で作られたペルーの投石紐など世界各地の組紐も紹介します。

組紐の構造

絹糸の染色や準備に使う道具や製作工程を通して、非常に繊細で複雑な組紐の構造を紹介します。組紐職人が丸紐や四角紐を組む際に用いる大型の丸台や、平紐を組むのに適した長方形の高台を展示し、美しいインスタレーションで組紐のクリエイションの全貌に迫ります。

組紐の未来

現在における組紐の使われ方やこれからの組紐の新しい可能性を探ります。現代ファッションやアート、科学分野において用いられている最も先進的な組紐の作品を展示します。未来に挑戦をする組紐の取り組みを紹介する本展は、21世紀の日本と世界に何を提供できるのかを考え、また現代に生きる人々が未来を生き抜くためのヒントを見つける機会となるかもしれません。

サイモン・ライト (ジャパン・ハウス ロンドン企画局長) のコメント

「この展覧会は、組紐を身近に感じ、その複雑なディテールの美しさを堪能できる機会となるでしょう。何世紀にもわたって脈々と受け継がれてきた組紐の伝統が現代の日本で続いているということは、歴史を築いてきた先人たちへの敬意であるとともに、この芸術がどのように生き残ってきたのか、またどのように未来につながるインスピレーションの源となり得るのかを伝える物語でもあります。絹を染め組む技術は、人々の暮らしを支える行いで、これは現代世界における持続可能なビジネスに通じるものです。本展を通して組紐について深く知っていただき、多様化する現代社会を生きる私たちが結びつける絆を見つけていただける機会になることを願っています。」

有職組紐 道明 10代目代表取締役社長 道明 葵一郎氏のコメント

「この度は、日本の組紐をロンドンの皆様にご紹介する機会をいただき大変光栄です。日本で1000年以上の長きに渡り独自に進化した組紐の技法は、細い一本の線状の構造の中に様々な世界観を描きます。ご来場の皆様はぜひ組紐に近寄ってじっくりと見ていただき、その驚くべき複雑さと繊細さ、そして美しさを体感していただければ幸いです。」

【開催概要】

展覧会名：『KUMIHIMO: Japanese Silk Braiding by Domyo』展
会 期：2023年2月23日（木）－2023年6月11日（日）
場 所：ジャパン・ハウス ロンドン（101-111 Kensington High Street, London, W8 5SA）
時 間：月曜日～土曜日 | 午前10時～午後8時
日曜日・祝日 | 午後12時～午後6時
入 場：無料（事前予約推奨）

主催：ジャパン・ハウス ロンドン
企画：有識組紐 道明、橋本 麻里（ライター・エディター）
会場構成：三井 嶺（三井嶺建築設計事務所代表）

* 展覧会公式ページは、[こちら](#)からご覧いただけます。

【本展公式写真】

本展の広報用画像は、[こちら](#)からダウンロードいただけます。

【有識組紐 道明について】

有識組紐道明は、1652年に江戸（現在の東京）で創業されて以来、上野池之端に店舗を構えています。江戸時代には糸商を生業とし、特に刀の鞘や束に付ける紐を販売していました。明治時代（1868年から1912年）に入ると、着物の帯の上から結ぶ帯締、羽織の衿につける羽織紐の販売を始めました。道明は創業されてから現代に至るまで、自社職人の手染めと手組みにより組紐を製造しています。正倉院、宮内庁をはじめとする各地の神社、寺院や博物館の依頼を受けて行ってきた、歴史的な組紐の調査研究と復元模造も重要な活動の1つです。道明はこうした活動を通して、多彩な技術、知識を蓄積し、その研究、保全、継承を通して組紐文化の発信・発展に貢献しています。

【橋本麻里氏について】

日本美術を主な領域とするライター、エディター。公益財団法人永青文庫副館長。金沢工業大学客員教授。新聞、雑誌等への寄稿のほか、NHKの美術番組、インターネット配信のドワンゴ「ニコニコ美術館」を中心に、日本美術の楽しく、わかりやすい解説に定評がある。近著に『かざる日本』（岩波書店）ほか、『美術でたどる日本の歴史』全3巻（汐文社）、『京都で日本美術をみる〔京都国立博物館〕』（集英社クリエイティブ）、『変り兜 戦国のCOOL DESIGN』（新潮社）、共著に『SHUNGART』『原寸美術館 HOKUSAI100!』（共に小学館）、編著に『日本美術全集』第20巻（小学館）など多数。

【ジャパン・ハウスについて】

ジャパン・ハウスは、日本の多様な魅力や政策・取組・立場を発信することにより、日本への理解と共感の裾野を広げることを目的に、外務省により世界の3都市（サンパウロ・ロンドン・ロサンゼルス）に設置された対外発信拠点です。

ジャパン・ハウス ロンドンは、日本文化への関心が高まる欧州の拠点として、ロンドン市内の文化的、商業的建造物が多く所在するエリアの目抜き通りケンジントン・ハイストリートに2018年6月に開館しました。アールデコ調の歴史的建造物の中の3フロアにわたり、展示ギャラリー、多目的スペース、ライブラリー、レストラン、カフェ、ショップを備えた複合施設として、アート、デザイン、食、建築、テクノロジーなど日本の多様な魅力を通して、真の日本との出会いを現地の人々に提供しています。

[公式ウェブサイト](#)

[Facebook](#)

[Instagram](#)

[Twitter](#)

[ニュースレターへの登録](#)

【本展についてのお問い合わせ先】

ジャパン・ハウス ロンドン事務局 Marketing & Communications 課

担当：飛驒 香生里／ジュリア・マシエッティ

E-mail：Kaori.Hida@japanhouselondon.uk／Julia.Mascetti@japanhouselondon.uk